次世代の子どもたちへの森林環境教育の推進

－森林ボランティア及び学校教育関係者等との連携－

遊々の森（香川）下草刈り

四国森林管理局が管理経営する国有林野は約18万haで、四国の面積の10%、森林面積の13%を占めています。また、温暖な気候や豊富な降水に恵まれ、藩政・明治時代から植林が進められたことから、現在国有林の約7割がスギ、ヒノキを主体とする人工林です。

国有林は、主に四国脊梁山地に分布し、特に西日本最高峰の石鎚山（1982m）を中心とした山系には広大で植物学的にも貴重な天然林があります。

一方、日本三大スギ美林のひとつでもある高知県馬路村魚梁瀬千本山のヤナセスギは、樹齢を重ねても成長が衰えないのが特徴で、200年を超えてなお成長を続けています。四国局では、こうした特色を生かし、以下に挙げるような森林環境教育を推進しています。

石鎚山

「遊々の森」の積極的利用

この制度は、森林管理署等と学校、都道府県、市町村、教育委員会、民間団体などが協定を締結し、国有林の豊かな森林を提供して、森林での遊び（秘密基地作り等）、自然学習（野生動植物の観察等）、林業体験（丸太切り、下草刈り等）等の様々な体験学習を実施するもので、現在、13カ所（399ha）設定されてい

遊々の森（香川）　森林土壌を用いた、水の浄化実験

ます。

全国第1号として平成14年に協定が結ばれた「遊々の森ドキドキわくわくコース」（香川森林管理事務所）では、毎年、活発な活動が行われており、平成22年度も、自然学習や下草刈り、ブランコ遊び等の活動が行われました。「遊々の森」での様々な活動を通じて、将来を担う子どもたちに、人々の生活や環境と森林の関係について理解と関心を深めてもらうことを目指しています。

「森林ボランティア活動入門講座」の開講

近年、国民の社会参加意識やボランティア活動への理解と環境問題への関心が高まりつつある中、団塊世代を中心に自ら森林整備・保全を行いたいと考える人が増えています。その活動内容は植林から、チェーンソー、刈払機等の林業機械を使う森林整備や、森林環境教育活動まで多岐にわたっています。このため、新たに森林ボランティア活動を志す方に、森林・林業分野の基礎知識、や高度な林業技術を学ぶことのできる入門講座を平成19年から開催しています。入門講座は「森林環境教育」「森林整備」「木材利用」の3講座を3日間かけて行います。

上：サポート講座〈座学〉
右：サポート講座（間伐体験）

入門講座（チェーンソー）

「森林環境教育」では、森からの贈り物である小枝等を使っての「木工クラフト」づくりを行い、「森林整備」では、チェーンソーの正しい使用法を学ぶための、目立て（チェーンソーの刃の研磨）、樹木の切り倒しなどの作業を実施しました。また、「木材利用」では、木材市場、製材工場及び建設中の木造住宅を見学しました。

森林環境教育サポート講座【森林の楽（学）育】

四万十川森林環境保全ふれあいセンターでは、森林環境教育に関する指導者の裾野を拡大するため、高知県教育センターと連携し、教職員を対象に平成19年から毎年研修会を開催しています。研修会は、当センターで発行している「森林環境教育プログラム」の炭焼き体験をはじめとした様々な内容について、実際に国有林のフィールドを使って体験しながら理解を深めてもらいます。平成22年度までの受講者は、110名に達し、「森林環境プログラム」は、それぞれの教育の場で活用されています。

「森林（もり）の達人集」の作成と情報の発信

多様な森林環境教育のニーズに対応するため、枝、葉、ツルなどの自然の材料を用いたり、林内、渓流などといった森林環境をフィールドとして活用する遊びや活動に精通している人を「森林の達人」として登録しています（平成23年3月末現在41名）。四国局のホームページに「森林の達人集」として取りまとめて掲載するとともに、達人と連携した森林環境教育に取り組んでいます。平成22年度は、一般市民を対象とした「きのこ観察ツアー」を実施し大好評を得ました。

今後、森林環境教育をさらに推進していくために、「森林の達人」及び「森林ボランティア」をさらに増やし、学校教育関係者や森林環境教育を実施しているNPO法人と連携強化を進める予定です。

食べられるきのこかどうかを判別する達人